地域の教育力向上研修　　令和5年(2023年)8月27日(日)

発達障がいのある子の理解とかかわり方

下諏訪町公民館と共催して、発達障がいのある子どもへの理解と支援について学ぶとともに、音楽活動を通じて社会的自立を目指している障がいのある若者たちの演奏を楽しみながら、障がい者に対する理解を深めました。

（受講者110名）

〈研修内容〉

○講　義

演題　「アタッチメントの視点から考える
発達障がいのある子どもの支援」

講師　花田養護学校
教諭　胡桃　薫　氏

○演奏会

楽団 ケ・セラ

受講者アンケートから

●否定する、強制するのではなくて「この人はこういう人なんだ」「こういうことが好きなんだ」という気づきにつなげる、じゃあどうするかと考える流れは、本当にそうだなと考えが変わった。（学校教職員）

●アタッチメントとは愛着関係だと思っていたが、それだけではなく情動の乱れを落ち着かせるために人間が持っているシステムだと知ることが出来た。私は保育士をしているが、保育園での生活の中では発達障害の子どもたちがやりたくない事も大人の都合でやらせなくてはいけないこともあり、胡桃先生がおっしゃった『命をかけてもすべきことか』と振り返るとやらなくてもいいこともあるなぁと思った。そして、その子のやりたいことを思いっきりやれば、次第に社会性も身に付いていくという話をもっとたくさんの人が理解してくれたら、そうした子たちが今をもっと生きやすくなるだろうにと思う。（幼保こども園）

●一人ひとりが好きな音楽を楽しんでいることが伝わってきた。それだけでなく、他の音と合わせて、曲を完成させていて、すごいと思った。楽団の活躍の場がこれからも増えていくことで多くの人に知ってもらえるようになるといいと思う。（幼保こども園）